

地域課題解決力を育む小中接続の総合的学習カリキュラム

担当者 田代高章*, 担当者名堀籠謙友,菅原純也**, 工藤真以,佐々木聡也,山蔭理絵,平澤傑***

*岩手大学教育学部, **岩手大学教育学部附属小学校, ***岩手大学教育学部附属中学校

(令和5年3月1日受理)

1. はじめに

本研究は,昨年度までの学部特別枠の小中接続教育を引き継ぎ、総合的な学習の時間(以下、総合的学習と略記)における地域課題解決力を育むための一貫カリキュラムの在り方を検討する継続研究である。これまで学部附属校としての総合的学習は、小学校の「わかたけタイム」、中学校の「ヒューマンセミナー」として開設されていたが、カリキュラムの接続に関しては、特に一貫性を持たせることはせず、各学校種において独立して、目標、活動内容、学習方法、評価を設定してきた。

学校教育を通して、これからの不確定で多様な社会の発展を担う、生涯学びつつける力を子どもたちに育成するためには、学校教育全体を通じて育成をめざす資質・能力を念頭に置きつつ、特に、義務教育段階でのカリキュラムの連続性を踏まえることも教員側の意識として必要となっている。

特に、これからの社会では、解決課題について、納得解はあれども唯一の絶対解はない。状況に応じた多様な解決策を模索し続ける問題発見・解決能力は、平成29年改訂学習指導要領においても、各教科をこえた学習の基盤をなす資質・能力として、言語能力・情報活用能力とともに挙げられている。

この問題発見・解決能力は、日常生活や社会とのつながりを比較的自由に取り上げることのできる総合的学習でこそ、有効に育成できるであろう。

本研究は、これまで附属小中学校で蓄積されてきた成果を発展的に継承しつつ、これからの時代に求められる課題解決力を、身の回りの地域課題に即して体験的、実践的な探究活動を通じて育成するためのカリキュラムの構築検討をめざす研究である。

(文責：田代高章)

2. 接続カリキュラムの構築：

今年度の実践状況(附属小学校)

1) 本年度の目標(全体計画の特徴)

これまで、本校の総合的学習では、学校周辺から岩手県外へと活動範囲の広がりをもたせて自由に題材を設定して年間計画を構想してきた。中学校においても盛岡から岩手へと活動範囲の広がりをもたせていることが分かった。また、小中共通の課題として、「問う力」が挙げられている。そのため、今年度は「盛岡」を中心として「自然・スポーツ・産業」を題材とし、問いを持続させられるような単元計画を構想した。(年間計画は末尾に掲載)

2) 今年度の実践展開(4・5年生の実践を中心に)

<実践1>

第4学年(全60時間)

盛岡ファンを広げよう～スポーツの力 無限大～

小単元1 シティマラソンを知ろう

小単元2 盛り上げよう!いわて盛岡シティマラソン

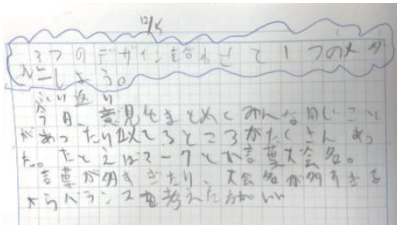
小単元3 また来てね!いわて盛岡シティマラソン

本単元は、地域の発展のために自分にできることを考え、地域の一員としてまちづくりに積極的に関わりながら生きていこうとする心を育むことをねらいとしている。小単元1でシティマラソン参加者や運営者の思いを探究し、小単元2ではシティマラソン会場で参加者を応援したり盛岡の魅力を発信したりする活動を行う中で、ランナーやボランティアの反応をもらい、更なる探究へとつなげた。小単元1・2の学びをもとに、もっと盛岡ファンを増やしたいという思いをもち、大会参加者が来年も参加したくなるような完走メダルデザインの考案・発信を通して、地域や社会に貢献する活動に取り組んだ。

デザインが採用されれば実現するというので、思いがより伝わるデザインを目指して意欲的に探究活動を進めた。



「表面」「裏面」「リボン」に分かれてデザイン



したものを一つにまとめるようにして進めた。当初は「全体のまとまり」という視点で積極的に意見交流をしていたもののまとめることが難しかった。それは、「まとまり」という視点が児童の中で統一されていなかったことが考えられる。デザインを関連付けて統合することが必要だったが、総和と捉えている児童が多かったように感じる。これは、各デザインに込められた子供たちの思いが強かったためである。そこで「盛岡のよさをランナーに伝えたい」という相手意識のある目的のもとに、「たくさん入っていれば伝わるのか」「一番伝えたいのは何なのか」を確認するとともに、「素材は南部鉄器」という視点を加えて話し合う中で、関連付けたり分類したりして統合へと思考の変化が見られた。

<実践2>

第5学年（全54時間）

農業すごいぜ

小単元1 発信！「いわてのスマート農業」

小単元2 提案！「いわてのこれからの農業」

本単元は、盛岡の農業について課題解決に取り組むことを通して、農業の大切さや守ろうとする人々の思いなどを感じ、地域に対する誇りと愛着をもち、地域の一員として生きていこうとする心を育むことをねらいとしている。小単元1ではいわてのスマート農業について追究活動を行い、家族や校内に発信した。本単元では、農家の方の6次産業化を目指している話から農業の問題を見出し、自分たちにできることとして販売促進について追究する。その中で、パッケージデザインに着目し、デザインの提案・商品化をする活動を通して、地域の産業に貢

献する活動に取り組んだ。

新たな問いをもつために、野菜の年代別消費量を提示し、問題を自分事として捉えられるようにした。その上で自分たちにできることについて考え、商品の販売促進のために自分たちにできることとしてパッケージデザインを提案することとした。農家の方の思いや商品の魅力が伝わる商品パッケージにするために、情報を収集し共通点について整理・分析しながらグループごとにデザインを考えた。

提案する活動では、実際に商品を加工・販売する農家の方に商品パッケージをプレゼンし、その後講評をいただいた。講評をもとに振り返る活動や商品化され実際に販売される経験が、地域の一員としての自覚や地域貢献する充実感を生み、中学校での総合的学習の土台となっていくことを期待している。



3) 今年度の成果と課題

<成果>

- 「盛岡」地域に焦点化したことで、「もの・こと」から「人」へと深く追究していくことができた。
- 地域の人と関わることで地域の課題が自分事となり、自分なりの解を創り出そうとする意欲の高まりにつながった。
- 児童の思考の助けとなる分類や関連付けなど考えるための技法や思考ツールを自然に使っているように、意図的に提示することができた。

<課題>

- 小学校での学びの経験が中学校での素地となることを考慮し、主体性の原動力となる体験的な学びを取り入れた単元を構想していきたい。
- 地域への興味関心を高められるような環境づくりについて考えていく必要がある。

（文責：堀筆謙友）

3. 接続カリキュラムの構築： 今年度の実践状況（附属中学校）

1) 本年度の目標（全体計画の特徴）

横断的・総合的な学習や探究的な学習を通して、自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力の育成を図ることをねらいとし、全体計画を構想している。今年度は、資質・能力の育成における小中連携を意識し、「思考力等、協調性等、主体性等」の3つの力を相互に関連付けながら、質的な高まりを目指した。また、スキル面において、小学校で育成されたクローズドスキルを基盤として、オープンスキルを育成する場面を学習活動に位置付け、その中でも議論する力や議論をコーディネートする力の育成を目指した。（全体計画、年計等は末尾に掲載）。

2) 今年度の実践展開（1・3年生の実践を中心に） ＜実践1＞

・1学年の実践（全50時間）

『地域と関わる』とはどのようなことか

～盛岡を知ることから始めよう～

探究① 私達が深掘りすべき地域課題とは

探究② 地域課題解決に向き合う人々

探究③ 地域と関わるとは、今現在の考え

第1学年では、盛岡に関する調査を通して、盛岡の様々な魅力や課題を知ると共に、魅力の発信や課題の解決に向けて尽力されている人々の生き方についての理解を深め、地域における自身の生き方を考えさせることをねらいとしている。特に、中学校での総合的な学習の時間の学び始めである1学年は、「学び方」の指導を時間をかけて行っている。

学習指導要領において、探究の過程として示される「課題の設定」、「情報の収集」、「整理・分析」、「まとめ・表現」の各セクションを、探究①～③の中で重点的に取り上げながら学習を進めている。本実践で紹介する探究①においては、「課題設定」や、その前段階である「課題の発見」を重点とした。学習の始めとして、生徒一人一人が「盛岡の地域課題」を見つける為の調査を行い、調査結果をレポートにまとめる活動を行った。レポートを作成する際には、

「そもそも課題とは何を指すのか」、「私達が課題だと感じていることは本当に盛岡の課題と呼べるのか」という問いに対し、比較対象を示したり経年推移を明らかにしたりするなど、根拠を明確にした分析・解釈を行わせた。このように、思い込みや感覚によってではなく、事実を元にした調査活動から真の意味での「課題の発見」を行うことができた。その後、SDGs策定の経緯を引き合いに出し、レポートで挙げられた無数の具体的な課題を図1のように12のラベルに分類した。更に、図2のバブルチャートを用いて、「課題の切実さ」、「中学生の関わりやすさ」、「私達の興味・関心」の三つの軸で課題を精査し、最終的に「中学生の私達が深掘りすべき盛岡の地域課題ベスト6」を決定した。このように、探究①ではボトムアップによって「課題の発見」と

「課題の設定」を行った。探究②では、探究①で定まった6つの課題ラベル毎にグループを編成し、課題を深掘りすると共に、課題解決に尽力されている方々への訪問学習を行った。講師の選定やアポイントメントも生徒自らが行った。探究③では、学習のまとめとなる講演会と、1

年間の学びをまとめたプレゼンを保護者に向けて行い、学習を終えた。与えられた課題ではなく、自分達で見出した課題だからこそ、生徒の主体性が損なわれずに学習を進めることができた。

＜実践2＞

・3学年の実践

第3学年の総合的な学習では、生徒が盛岡市の地



図1 盛岡の地域課題12

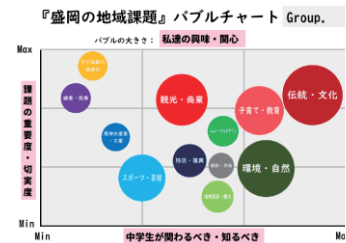


図2 バブルチャートで分析



図3 話し合いの様子

域課題を見出し、課題を解決するための方策を小グループで考え、企業や団体に提言する問題解決活動を行った。地域課題は、九つの視点（表1）に分類することができ、小グループで視点を選択し探究活動を進めた。

表1 共通学習課題に迫る九つの「探究の視点」

①テクノロジー	②人口	③教育
④国際	⑤経済・産業	⑥環境・エネルギー
⑦医療・介護	⑧幸福	⑨SDGs

本校で毎年行われる学習旅行では、地方創生で知られる秋田県五城目町でフィールドワークを実施し、主体的にまちづくりに携わる官民様々な立場の住民から話を伺い課題解決のヒントを得た。学習旅行成果発表会（旅行中の学びと旅行後の地域実践プランを住民に発表する会）の中で、五城目町の大人から鋭い意見をいただき、実践内容をブラッシュアップすることができた。

さらに、地域課題解決の方策を実際の地域の実態に即したものにするため、小グループで表2に分類される盛岡フィールドワークを行った。

表2 実際に行った地域実践の分類

①企業・団体への提言(プレゼン発表)
②企業・団体等とのコラボレーション(販売・募金)
③共同制作(大人数で一つの美術作品をつくる)
④実態調査(アンケート, インタビュー, ごみ拾い)
⑤デジタルコンテンツ発信(動画, Web サイト)
⑥掲示・配布(チラシ, ポスター, パンフレット, 石鹸, 缶バッジ)

図1 提言の様子

図2 長崎附中との交流



その後、長崎大学教育学部附属中学校との地域課題解決のための交流会を実施した。長崎大附中においても、地域課題解決の実践を行っている。一人一台端末によるリモート会議システムの小グループ会議機能を用い、本校1名と相手校1名でペアを組み、地域課題・解決方策のプレゼン・議論によるブラッシュアップを行った。その中で、自地域では気付くことができない地域課題の特質の再確認、解決方策の妥当性の吟味を行うことができた。

（執筆担当：地域実践・山蔭理恵，リモート実践・平澤傑）

3) 今年度の成果と課題

<成果>

- 小学校で取り組んだ卒業研究を生かして、地域課題を見いだす活動を行うことができた。
- 地域課題の解決に向け、社会で働いている方へのプレゼンを通し、自分たちの活動をブラッシュアップした状態で校外に出て実践を行うことができた。
- 「議論する力」を高めるために、議論する場を意図的に設定し、他者との意見を交流したり、批判的に捉えたりすることで考えを深めることができた。

<課題>

- 地域課題に解決について、広報活動やプレゼンに留まらず、実践的な活動をより取り入れられるようにしていきたい。
- アウトプットする量が足りず、他者に自分の考えを伝えたり質問をしたりできない生徒がまだ多数いるため、議論する力をより高めていく必要がある。（文責：工藤真以）

4. 小中接続カリキュラムの構築における成果と課題

1) 研究の視点

本研究でのカリキュラム開発に際しては、カリキュラム・マネジメントの発想から、実践を通してその検証改善に努め、よりよいカリキュラム構想を継続的に再構成し続けることが求められる。その成果は、1年ないし2年とかの短期の実践研究で現れるほど単純ではない。特に、総合的学習では、各教科と異なり、量的評価よりは質的評価、多面的な評価が求められる。

カリキュラム・マネジメントの観点からは、さらに、以下の3つの視点が設定できる。

1. 教育目標（資質・能力を含む）を踏まえた教科横断的な視点（日常的な地域素材をもとにした課題）で、目標達成にふさわしい活動内容（地域の良さや課題）、活動方法（探究学習）、活動評価（多面的、質的評価：ルーブリック提示も含む。別途、カリキュラム評価も行う）全体像を提示する。

→カリキュラムのトータルデザイン（全体計画）

2. 子どもたちの実態に即して、PDCA サイクルを参考に、目標設定・計画・実践・評価・改善を図る。

→**実態に基づく計画的・継続的な実践改善**

3. 学習活動に必要な地域の資源（物的・人的）を活用しながら、活動の質の向上を図ること。

→**地域と学校との連携協働**

それらの具体的な視点を念頭に置きつつ、本研究に関する今年度の成果と課題をまとめる。

2) 成果について。

今年度の附属小中学校における、総合的学習についての接続カリキュラムとして、前年度同様に、教職員間での情報共有を基本に、地域課題を共通テーマに掲げながら、資質・能力レベルでの統一性を図りつつ教育計画全体において反映できていることが、第一の成果である。

次に、地域課題という、児童生徒にとって身近なイメージしやすい素材を掲げることで、学校と地域社会（コミュニティ）とのつながりを意識しながら考え、行動する契機をもたらした点、すなわち、社会に開かれた教育課程の現れであり、子どもたち自らが地域の当事者として、リアリティある学び（真正の学び）を実現する素地を確立できた点が、第二の成果である。

さらに、前年度からの教育計画を踏まえながら、具体的な実践を通して、常に、目標・内容・方法・評価の改善を検討してきていることが、第三の成果である。

3) 課題について

まず、地域課題解決力を育成することが、子どもたちのどのような生き方と関わるのか、この点の再検討と実践への反映を図ることが第一の課題である。

地域課題解決型の総合的学習として、小中一貫カリキュラムを考えた場合、最終的には、これからの社会を多様な他者とともに、自らが当事者意識をもって地域づくりに参画できる力（実践的な社会参画力）の育成を最終目標として掲げたい。そのための活動内容として、地域の課題を自分たちなりに解決し、その解決策や提案を広く地域の方々や行政担当

者、他学年の子どもたちに発信・提示するとともに、地域の大人たちに働きかけて、子どもたちが自ら社会的に実践できる力の育成（社会参画力の育成）につながる実践であるかを検討し続けることが必要ではないか。その際、学習活動を通じて得られた情報の吟味から、理解できたことの「質」が高まるだけでなく、それをもとに子ども自身が自分事として捉え、自ら行動して地域に働きかける実践的行動力も高めていきたい（「認識」のレベルから「行動」のレベルへの系統的発展）。

次いで、小中接続のカリキュラムの効果について、あらためて教員間、児童生徒間でのアンケートや協議の分析結果を次年度の活動計画（全体計画、年間指導計画）に反映させてなるべく学習評価を充実させることが第二の課題である。ルーブリックの検討も必要であろう。

さらに、地域の課題を児童生徒とともに考える場合、地域の方々との交流を幅広く保障していくことが第三の課題である。ある程度の継続性をもって、地域の方々との程度つながっていくことが可能か、量的・質的の両面から検討することも必要であろう。

また、課題解決の学習において、課題設定、情報収集、整理分析、提言行動等、あらゆる学習活動全般における ICT 活用も、より系統的・組織的に広げていくことも第四の課題として挙げられる。

これらのことも年頭に置きながら、次年度以降もさらに充実した小中接続の地域課題解決力、ひいては社会参画力を育む総合的学習カリキュラムの創造に努めていきたい。（文責：田代高章）

謝辞：

本稿に関わる実践報告に際して、附属小学校の4年生、5年生、附属中学校の1年生、3年生の皆さん、関係の先生方にはご協力いただきまして、心より感謝申し上げます。

図表1 全体計画（附属小学校）

令和4年度 岩手大学教育学部附属小学校 わかたけプラン
未来を切り拓く人間



		知識・技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性
		<p>○各教科・領域で身に付けた知識や、技能を探究的な学習の過程で駆動させる。</p> <p>○探究する対象がもつ固有の知識や技能を身に付け、活用する。</p>	<p>問う力 自己の考えとのおずれや隔たり、また、対象へのあこがれや可能性を感じる中から、自分なりのこだわりをもち、追究を進めるための原動力を形成することができる力</p> <p>追究する力 課題解決のために、適切な活動において自覚的に情報収集して蓄積する力。収集した情報が正しいかどうか判断し、批判的に整理・分析し思考する力</p> <p>表現する力 相手意識や他者意識をもちながら、他者へ伝えたり、自分自身の考えとしてまとめたりする力。伝えるための具体的な方法を身に付けたり、実際の行動を起こしたりしながら表現する力</p>	<p>見つける力 形成・確立された価値観をもとに、学んだことの意味を自分とのかかわりにおいてとらえ、自己の生き方と結び付けて考えようとする力。</p>
3年生	<p>重点にする資質・能力 ◎身近なものから探究課題を設定したり、体験活動を設定したりして「問う力」を育成する。 ◎学級での課題解決やグループでの課題解決から、探究的な学習のプロセスを経験し、個人で課題解決できる素地を養う。</p> <p>主な発信方法 ◎追究したことをポスターに表現し、友達や先生、家族に向けて発信する。</p>	<p>◎追究ツール ※ピラミッドチャート ※ウェビングマップ ※ベン図</p>		
<p>4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月 1月 2月 3月</p> <p>みりょく再発見！わたしたちの附属小学校 わたしたちの中津川 43時間</p>				
<p>附属小学校大研究 10時間 附属小学校の中から「問い」を見つけ、追究し、わかたけの学び方を学ぶ。 【活動例】 ※附属小学校でみることのできる植物を調べてマップに表す。 ※なぜ「わかたけ」というのか。附属小学校と竹の関わりを追究する。 関連教科 社会</p> <p>中津川の植物をテーマに探究課題を設定し、見学したり体験したりすることを通して追究し、地域の自然を保全するための取組を考え、実行する。 中津川の植物 10時間 中津川の生き物をテーマに、見学・調査、体験活動をするなどして追究する。 【活動例】 ※中津川の植物マップをつくる。 ※中津川の植物図鑑をつくる。</p> <p>中津川の生き物 10時間 中津川の生き物をテーマに、見学・調査、体験活動をするなどして追究する。 【活動例】 ※水生生物調査 ※川遊び体験 ※中津川生き物図鑑・マップを作成する。</p> <p>中津川を未来へ 10時間 中津川の環境保全テーマに、見学・調査、体験活動をするなどして追究する。 【活動例】 ※サケの遡上見学 ※稚魚の放流体験 ※中津川の環境を守る活動を考え実行する。</p> <p>関連教科 社会 理科</p> <p>タイムスリップ！地域の昔 17時間（冬季休業含む） 学校や加賀野地区、盛岡市の昔の様子について、地域の方、専門家の方、お年寄りの方にインタビューするなどして追究し、地域の移り変わりについて知り、未来の地域像を考える。 【活動例】 ※中津川の昔の様子について調べる。 ※昔の加賀野や盛岡市の様子をお年寄りに方から教えていただく。 関連教科 社会 道徳</p> <p>レッツプログラミング 10時間 ○アンブレグッドプログラミングの体験を通して、プログラミングの考え方について学ぶこと。 ○ピスケットによるプログラミングの基礎を理解すること。 ※かな入力で簡単な文字入力ができること。 ※データの保存ができること。</p>				
4年生	<p>重点にする資質・能力 ◎地域の「人・もの・こと」の魅力に目を向けさせ、「問う力」を育成する。 ◎本やインターネット、ゲストティーチャーからの講話など多様な方法で情報を収集したり、思考ツールを活用して整理・分析したりして「追究する力」を育成する。</p> <p>主な発信方法 ◎追究したことをリーフレットやCM、応援グッズに表現し、地域の人に向けて発信する。</p>	<p>◎追究ツール ※クラゲチャート ※ピラミッドチャート ・ウェビングマップ ・ベン図</p>		
<p>4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月 1月 2月 3月</p> <p>盛岡ファンを広げよう ～スポーツの力無限大～ 60時間</p>				
<p>いわて盛岡シティマラソンについて 10時間 マラソンの魅力やいわて盛岡シティマラソンの目的、歴史について追究する。 【活動例】 ※いわて盛岡シティマラソンについて自分なりの問いをもつ ※マラソンや大会について情報収集する ※いわて盛岡シティマラソンについてGTに話を聞く。 関連教科 体育</p> <p>盛り上げよう！いわて盛岡シティマラソン 30時間 シティマラソンの3つのコンセプト「する・見る・支える」の「見る」の目標である応援者1万人を達成するため、自分たちにどんなことができるかを考え、追究する。 【活動例】 ※市役所や参加ランナー、市民に話を聞くなどして調査する ※シティマラソンの魅力をリーフレットやCM、応援グッズにまとめてランナーに発信する ※自分の身近な人に向けて個人で発信活動を行う（夏休み） 関連教科 体育 特別活動</p> <p>また来てね！いわて盛岡シティマラソン 20時間 いわて盛岡シティマラソン参加者のリピーターを増やすため、完走メダルに着目し、来年度も参加したくなるようなメダルデザインを追究し、実行委員会の方に提案する。 【活動例】 ※様々なメダルデザインについて情報収集する ※収集した情報を整理・分析し、コンセプトに合うデザインを考える ※完走メダルのデザインを実行委員会の方に提案する 関連教科 図工</p> <p>レッツプログラミング 10時間 ○スクラッチを使ったプログラミング体験を通して、プログラミングの基礎を理解すること。 ○ローマ字による文字入力に慣れること。</p>				
5年生	<p>重点にする資質・能力 ◎実社会の「人・もの・こと」に関わりながら探究課題を設定し、「問う力」を育成する。 ◎探究したことを基に、地域への発信活動、関係機関への提案などを行い「表現する力」を育成する。</p> <p>主な発信方法 ◎追究したことをポスター、リーフレット、CMなどに表現し、地域に発信する。</p>	<p>◎追究ツール ※マンダラチャート ・クラゲチャート ※ピラミッドチャート ・ウェビングマップ ・ベン図</p>		
<p>4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月 1月 2月 3月</p> <p>農業すごいぜ！ 54時間</p>				
<p>発信 いわてのスマート農業 27時間 岩手県がスマート農業を推進しているという事実から問いをもち、スマート農業について追究する。 収集した情報や農家の話をもとに、「いわてのスマート農業」について発信する。 【活動例】 ※農家の方から話を聞き、スマート農業の技術や推進理由を従来の農業と比較しながら調べ、情報を整理・分析する。 ※スマート農業の情報を整理・分析したものをCMにまとめ、スマート農業参観デーや校内放送で農家の方や校内に発信する。 関連教科 国語 社会 理科</p> <p>提案 いわてのスマート農業 27時間 スマート農業を採用している農家の方が自社での加工・販売を目指している事実から問いをもち、第6次産業について追究する。 収集した情報をもとに、商品パッケージをデザインしてプレゼンする。 【活動例】 ※農家の方の話から商品販売について自分たちにできそうなことを考える。 ※スマート農業や商品の情報を整理・分析し、商品パッケージをデザインする。 ※販売を目指す農家の方に商品パッケージデザインを発信する。 関連教科 国語 社会 特別活動</p> <p>森林と共に（林間学校） 10時間 森林と比との関わりについて、体験を通して追究する。 【活動例】 ※森林と人の関わりについて、岩手大学から講師を招いて学ぶ。 ※森林の人の関わりについて、区界高原での宿泊学習を通して体験的に学ぶ。 関連教科 社会 理科</p> <p>ロボットのプログラミング 6時間 ○ロボットをプログラミングして、条件に沿って動かすこと。 ○身近な生活とプログラミングとの関わりを調べる。</p>				
6年生	<p>重点にする資質・能力 ◎わかたけの学習のまとめとして「卒業研究」を設定し、これまでに身に付けた資質・能力を総合的に発揮できるようにする。 ◎地域の魅力や課題を見つめ直し、個人の探究課題を設定させることで「問う力」を育成する。 ◎人との関わりを通して自己の生き方や考え方について振り返る活動を行い、「見つける力」を育成する。</p> <p>主な発信方法 ◎目的に合わせて効果的な方法を選択して発信する。</p>	<p>◎追究ツール ※フィッシュボーン図 ※マンダラチャート ・クラゲチャート ※ピラミッドチャート ・ウェビングマップ ・ベン図</p>		
<p>4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月 1月 2月 3月</p> <p>ともにひらく 65時間</p>				
<p>とことん追究！卒業研究 50時間 岩手県の特長や魅力、課題を見つめ直し、個人で探究課題を設定して追究する。3年生からのわかたけの学習で身に付けた力を活用する。 【活動例】 ※私たちが守り続けよう！盛岡の石割桜 ※盛岡城址公園活性化プロジェクト ※放送局のグローバル・ローカルとは？ など</p> <p>ひらくセミナー 10時間 夢に向かって生きている方から話を聞き、自己の生き方を見つめ、自分の将来に生きたいことを考え、表現する。 【活動例】 ※夢に向かって生きている地域の方からお話を聞く。 ※自分が夢の実現に向けて生きていく上で大切にしたい言葉をまとめる。 ※自分の夢とこれからの生き方について紹介する。 関連教科 国語 道徳 特別活動</p> <p>学習旅行 5時間 旅行先の街の特色や魅力が地域の魅力と比較しながら追究し、旅行先の魅力を地元の方に発信する。 【活動例】 体験活動 発信活動 関連教科 社会 特別活動</p> <p>ロボットのプログラミング 5時間 ○ロボットをプログラミングして条件に沿って動かすこと。 ○身の回りのプログラミングと社会の関わりを調べること。</p>				

引用・参考文献

- ・岩手大学教育学部・岩手大学教育学部附属中学校編（2022年）『Society5.0時代の中学校教育の構想と実践』福村出版、pp.249－268。
- ・田代高章・阿部昇（2021）『「生きる力」を育む総合的な学習の時間』福村出版。
- ・文部科学省（2021）『今、求められる力を高める総合的な学習の時間の展開（小学校編）』アイフイス。
- ・文部科学省（2022）『今、求められる力を高める総合的な学習の時間の展開（中学校編）』アイフイス。